

「ホップ、ステップ、ジャンプ」



学校長 後藤 知行

今年も、スマイル学級のみなさんには、元気をたくさんいただきました。笑顔やあいさつだけでなく、様々な活動を通して、成長する姿に、感動もいっしょにいただきました。

今年度は、昨年度以上に、たくさんの方の行事や活動をすることができました。自立活動では、今年もみんなで協力して、野菜や花の苗を育て、保護者のみなさんや先生方に一部を購入してもらいました。遠藤先生を中心として、春から学校の畑を耕し準備を進め、夏の暑い中での除草、当番で早朝に行う水やりと、頑張った結晶として、おいしい野菜に育ちました。勤労の大切さと喜びを実感できたことと思います。

また、今年度は、念願の横川中学校と合同での宿泊学習も実施できました。

「モビリティリゾートもてぎ」でレクリエーション活動を楽しんだり、益子焼の絵付け体験を行ったりと、自己理解の良い場となりました。

その他にも、今年度は、仲間と交流する経験もたくさん持つことができ、貴重な学びの時間となったと思います。昨年度は「ホップ」、今年度は「ステップ」という感じでした。さあ来年度は「ジャンプ」です。実際に行って、見て、感じる大切さをこれからもたくさん経験してください。

インクルーシブ教育を考える

ここ数年で「インクルーシブ教育」という言葉を耳にする機会が増えました。SDGs(持続可能な開発目標)の四つ目にも「質の高い教育をみんなに」として取り扱われています。学校現場では、共生社会の形成に向け、インクルーシブ教育システムの構築や特別支援教育の推進に日々取り組んでいます。

本校でも様々な活動を通して共生社会に向けた取り組みを行っており、今回は今年度実施した内容から二つご紹介したいと思います。

① 交流及び共同学習の実施

これは特別支援学級に在籍する生徒が、通常の学級で授業を受けるものです。授業中の対話的活動や協同的活動を通して、多くの人との関わりを学び、生徒自身の自信や達成感に繋がります。

② 居住地校との交流活動

これは生徒の居住する地域の特別支援学校と交流活動を行うものです。本校の二年生がのざわ特別支援学校に行き、特別支援学校生徒とボッチャを通して交流を図りました。また、のざわ特別支援学校の生徒が本校来校し、伝統である陽北よさこいを一緒に踊りました。

このような活動を通して、共生社会に向け、一人一人が考え、行動できる機会を設けています。

こんなところに特別支援教育

「三分前です。席についてください。」学級委員長や教室に向かいながら話す先生の声が聞こえる。なぜ三分前着席をする必要があるのか。授業準備のため、時間を守る習慣をつけるためなど、理由は様々だと思います。私にとっては、とてもありがたい「三分前着席」です。

私は自分を律することが少し苦手です。ただ、なぜか周りの雰囲気を読むのは少しだけ得意みたいです。だから、周りがザワザワしていると私も楽しい気分になり、周りがキリッとするとも私もちやんとしなきゃという気持ちになる。こ

れは、周りのせいでもなんでもなく、私自身の特徴なのです。学級委員長や先生の声はもちろん聞こえています。そろそろ座らなくちゃ！と考えることもあります。

そんな時に私を助けてくれるのは、周りのみんなです。みんなが席に着き始め、授業モードのオーラを出し始める。雰囲気を読むのが得意な私は、すかさず席に着く。そして、落ち着いた気持ちで授業を始めることができる。目には見えない特徴がある私にとって、三分前着席をしてくれるクラスメイトはとっても心強い味方です。だからこそ、自分でできるようにしなくちゃ！と思うことが増えました。いつも三分前着席をしてくれるみんな、本当にありがとう。

手をつなぐ親の会 会費

今年度も、各世帯二四〇円(年間)の会費を集めさせていただきました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

今年度は、会報誌「手をつなぐ」の購読料をはじめ、特別支援学級の合同宿泊学習や農園活動の道具、門松の材料、卒業式の装飾などに使わせていただきました。

今後も本校の特別支援教育の推進に努めたいと思います。

